

経営理念の共有が導いた成長 — メンテックの歩みとこれからの挑戦 —

はじめに

当社代表取締役社長・関谷宏は、去る8月22日、赤坂インターシティ Airにて行われた「日経トップリーダー大学第12期」にて最終講義を行い、経営理念を自ら社員に伝えることの意義と、そこから生まれる成長について、当社事例について講演しました。本講演には全国から約30名の中小企業の経営者、次期経営者が参加しました。

本稿では、その要点を紹介いたします。

「顧客の困り事に寄り添う」という原点

1967年創業のメンテックは、製紙業界における課題解決に半世紀以上取り組んでまいりました。潤滑油の輸入代理店から始まり、装置・薬品の開発からメンテナンスサービス、更にはAI・IoTを活用したシステム開発を手掛ける企業へと進化してきました。

変化の根底にあるのは一貫した理念です。「顧客の困り事に寄り添い、ともに解決する」。

この理念は全社員に共有されており、営業、開発をはじめとする全ての職種が「お客様である製紙現場の課題解決」を最優先に考えています。社内での協力体制はもちろんのこと、時にはお客様と一体となって現場で課題解決に取り組む姿勢が受け継がれています。

経営理念を浸透させる取り組み

2008年のリーマンショックや2011年の東日本大震災など、外部環境の大きな変化によって事業環境が厳しさを増した時期がありました。そうした中で当社が強

く意識したのは「理念の再確認」でした。

2013年から経営理念共有会を開催し、社長自らが全社員に直接語り続けています。会社の存在意義と価値観を繰り返し伝え、その中で社員は「自分の仕事は理念にどうつながっているのか」を考えるようになり、行動の軸を確立しました。

今日では、継続的な理念教育や、評価制度に理念を組み込む仕組みを整え、理念を単なる言葉で終わらせず日常業務に息づかせています。

お客様とともに課題を解決する企業へ

当社は、装置や薬品という「モノ」を納めるだけではありません。

- ・現場を見て、課題の本質を把握する。
- ・顧客ベネフィットを定量的に捉え、最適なソリューションを提案する。

- ・さらには、定期的なメンテナンスや技術サービスを通じ、効果を持続させる。

これらの取組みは、「お客様と協働して課題を解決すること」こそがわれわれの商品（ソリューション）であるという考え方に基づいています。お客様から信頼いただき、困ったときには気軽に相談できる「パートナー」であると評価いただくことが、何よりの誇りです。

今後の挑戦

講義の最後に、関谷は次のように語りました。

- ・「社員が情熱を持って取り組める“やり場”を作ることが社長の使命」
- ・「お客様と共に課題を解決し、技術革新を推進する」

この想いを基盤に、今後も日本発のリサイクル技術を世界に広げ、製紙業界の



持続的な発展に貢献してまいります。

会場の様子

90分にわたる講義では、参加者の皆さまが熱心に耳を傾け、うなずきながらメモを取る姿も多くみられました。

続く90分間の質疑応答では、「現場と理念をどう結びつけているのか」「社員にどう伝えているのか」「給与体系や組織づくりの工夫」など経営の実務に直結する具体的な質問が相次ぎ、活発な議論が展開されました。

おわりに

メンテックの成長は、経営理念を軸に社員1人ひとりが「お客様の困り事に寄り添う」姿勢を貫いてきた結果です。これからも、社員とお客様が一体となって課題を解決し続けることで、より良い未来の紙づくりに貢献していきます。

参考資料

日経トップリーダー大学 12期

<https://project.nikkeibp.co.jp/nvc/nvu2024/>

「日経トップリーダー大学」は、日経BPが主催する中小企業の経営者、次期経営者、幹部向けの学びの場です。全国から集まった中小企業の経営者や後継者が、第一線で活躍する経営者や専門家による講義を通じて、経営理念・戦略・組織づくりなどを学びます。年間を通じたプログラム形式で行われ、実践的な気づきを得られる場として多くの経営者から支持されています。